JA道東あさひ
草地植生改善フェスティバル２０１２

10月19日(金)、別海町コミュニティーセンター及び営農センター横の試験圃場において草地植生改善フェスティバル2012を開催致しましたので、以下にその内容を抜粋しご紹介します。

はじめに　～地域の植生改善に向けたメッセージ～

プロジェクトリーダー福本弘一氏より、自ら取り組む土・草づくりの事例（アルファルファの定着）紹介があり、その中で一般の事業による更新圃場との土壌分析結果の比較でリン酸・カルシウム・マグネシウムの値が高く、それがアルファルファの定着に寄与している旨の説明がありました。今後は、スラリーやライムケーキ等を有効活用しながらチモシー・アルファルファ・ペレニアルライグラスを低コストで最大限の効果を得られるよう肥培管理に努めたいとのメッセージが示されました。

【１．話題提供】

①**「根室地域におけるペレニアルライグラス、アルファルファの可能性」**　講師:高山　光男氏　雪印種苗㈱北海道研究農場長

アルファルファの栽培のポイントは土壌の肥沃度を高めることが重要で、それには表層の有効利用(表層撹拌)と、浅いプラウ耕が適しており、カルシウム・マグネシウム・リン酸・スラリーを活用すること。さらに、ペレニアルライグラスは糖含量が高く嗜好性に優れるが、大粒菌核や凍害に弱く、永続的な利用は不可能で対策をとるには①放牧地へ追播して嗜好性、産乳性の改善②採草地へ混播して発酵品質を改善することと示されました。また、シバムギ対策にオーチャードグラスが有効として、チモシー草地では６年でシバムギが優占するが、オーチャードグラスは10年は維持できる可能性があり、従来の早生品種より、晩生品種を利用して嗜好性を良くし、採草地ではペレニアルを混播して発酵品質改善に良好と示されました。

②**「植生改善による農業経営改善効果」**　講師:岩渕　慶氏　ホクレン農業協同組合連合会　本所　自給飼料課　調査役

リードカナリーグラスとチモシーの給与比較試験の説明の後、植生改善の費用対効果の説明があり完全更新で26万／haかかった場合、更新後３年間良い状態が維持できれば４年目からプラスに転じる旨の説明があったが一方、更新後の管理が不良の場合、５年経っても掛かった費用は回収できないと示されました。

③**「根室地域で利用可能な草地整備事業の実際と今後の整備事業の方向性」**　講師:白土　郁哉氏　農林水産省 生産局畜産部畜産振興課

現在、濃厚飼料は主に輸入に依存しているのが現状で、飼料自給率を38%(32年度)に引き上げ、飼料基盤や機械の整備等を支援し穀物相場に翻弄されない足腰の強い畜産経営を実現させることを目標としている。そのために草地の生産性向上、コントラクター・TMRセンターの普及・定着の支援や飼料費節減や飼養管理、作業の省力化の観点から放牧への取組みも推進している。また、25年度の自給飼料対策としては１．飼料増産総合対策事業２．草地畜産基盤整備事業及び畜産環境総合整備事業などについて説明がありました。

【２．展示・情報提供コーナー】

除草剤の効果では、シバムギ・リードカナリーグラス・ギシギシ・タンポポ・カヤツリグサ科にラウンドアップマックスロードを散布した経過日別の効果の発現の違いやカルチプラウ（心土破砕）の改善効果やその他作業機の紹介、有効活用促進として、所有する圃場に用途、更新履歴、植生状況などデータを入力し、視覚的に圃場状況が確認できる圃場マップの見本、良質サイレージと劣質サイレージの官能比較（色や匂い）などがJA職員、普及員によって説明がありました。

【３．パネルディスカッション】

酒井氏をコーディネート役、小出佳正氏(普及センター)、高山光男氏(雪印種苗㈱北海道研究農場長)、遠山健一氏(㈱ホクサン)、福本弘一氏・井出功一郎氏(土づくり実践者)をパネリストに迎え、“雑草との戦いについて”をテーマにディスカッションを行いました。

近年の圃場における雑草の割合が５～６割を占め、さらに、更新しても６～７年でイネ科雑草が占有し始める現状の中でどう対策をとっているか。福本氏、井出氏とも春播種より雑草が出にくい夏播種施工に取組んでいて、特に井出氏は更新時の除草処理と発芽した雑草の掃除刈りの重要性を話されました。

また、グリホサート系の除草剤でもシバムギよりリードカナリーグラスの方が効きにくい場合があることや、新播草地でもギシギシの繁茂が目立つ場合には薬量や散布するタイミングに気をつけアージランやハーモニーを使用することがポイントとされました。

【４．作業技術情報・実演会】

サブソイラー(心土破砕)、アッパーローター(表層撹拌)、ケンブリッジローラー(鎮圧)の作業実演を行い、設定、効果的活用法、メンテナンスのポイントをJA職員、北海道農業公社担当職員より説明しました。

◇**サブソイラー**：作業は接地後ゆっくりとスタートしコールターが表層を切り始めてからスピードを上げ、また刃を抜く時はバックしながらゆっくりと上げる。

◇**アッパーローター**：昨年からの改良点は後部に取付けする転圧輪を鉄製カゴローラーからプレスアップローラーに変更し、播種床がキレイに仕上がり、その後の鎮圧作業において平らに仕上がるようになった。

◇**ケンブリッジローラー**：後で旋回の跡を消す場合は、枕地幅が広くならないように、枕地での旋回はできるだけ端で行う。踏み残しがないように枕地でローラーがターンした跡を確認し、半分ずつずらしながら(前回のローラー跡の端がトラクターの中心を通るように)周回する方法が紹介されました。